

令和5年度第1回北海道立近代美術館協議会 議事録

1 日 時 令和5年9月6日(水) 13:30~15:30

2 会 場 北海道立近代美術館 3階 会議室 (Web会議システム Zoom 併用)

3 出席者 【委 員】東尚典、大石朋生、柿崎三津子、千葉徹、中井令、三澤祥子、

三橋純予、吉崎元章(副会長)、吉野光(計9名)

(欠席 北村清彦(会長)、霜村紀子)(敬称略50音順)

【事務局】近代美術館：立川館長、松田副館長、中村学芸副館長、熊澤総務企画部長、

五十嵐学芸部長、富田総務企画課長

三岸好太郎美術館：櫻井館長、岩上副館長

4 傍聴者 なし

5 議 題

(1) 令和4年度事業実施報告及び美術館評価について

(2) 令和5年度運営計画について

【近代美術館】 (資料1-1)

【三岸好太郎美術館】 (資料1-2)

(3) 北海道立近代美術館リニューアル基本構想(中間報告)について(資料2)

6 議 事

館長挨拶、委員・職員紹介の後、副会長の進行により議事に入る。

(1) 令和4年度事業実施報告及び美術館評価について

(2) 令和5年度運営計画について

ア 事務局から資料1-1(近代美術館)について説明

イ 質疑・意見

【吉崎副会長】

ただいまの説明に関して、御質問や御意見等があれば、お願いします。

私から、先に1点ご質問させてください。昨年度の事業で、「フェルメール展」、「エジプト展」、「法隆寺展」、「サンリオ展」など、沢山の人が入り、沢山のニーズがあって、幅広い人たちの興味に応える展覧会を開催している一方で、「砂澤ビッキ展」のような、これまで何度も開催されながら、全く違う切り口で、これまで公的な美術館では展示されていない作品で野心的な展覧会を開催したり、「戦時下の北海道美術展」のような、新しい研究成果の展覧会を開催したり、すごく充実した内容だったと思っているのですが、評価において、多彩で特色ある展示活動の充実がBという評価になっております。一体何が足りなかったとお考えなのか、お聞きしたいと思います。

【中村学芸副館長】

評価につきましては、評価項目、評価指標、指標値、実績値、達成率に基づき、評価しております。例えば、常設展示の充実度の観覧者の満足度の指標値は90%ですけれども、実績値としては、87.9%が満足したということで、指標値に及ばなかったという事実があります。

また、常設展示のリピート率については、指標値を72.5%としたけれども、実績値としては62.2%となり、達成率が86%弱となります。そのような細かな指標、それに対する実績をいろいろと検討し、評価が、個別の部分ではcがあったり、bがあったりしまして、総合的に勘案した時に、Bという評価となりました。

【吉崎副会長】

掲げている指標がかなり上だったのかなという気がします。今年、実施した展覧会で「トリックメイリュージョン！展」は、自分たちで企画した展覧会であると聞きました。すごく充実した内容でしたし、「友田コレクション展」も、寄贈いただいた作品をただ展示するだけではなくて、より理解が深まるようにコレクションを活用しながら開催した良い展覧会だと思いました。

それから、今年度、これから開催する日本画の展覧会、アイヌの展覧会など、それぞれの学芸員が日頃から研究していることを、展覧会として実際に道民に提供するという活動が本当に美術館らしいですし、学芸力がしっかりと発揮されて素晴らしいと思っており、楽しみにしております。

【三澤委員】

アンケートの取り方について、QRコードを使っているということでしたが、観覧した後に、会場でQRコードを探すのは難しいと思いますが、チケットの半券などにQRコードがついていたら、家に帰ってもできると思いました。

【松田副館長】

アンケートの取り方については、いろいろな考え方、方策があると思います。先程も部長から説明させていただきましたが、今年度より、アンケートを読み込むQRコードのシールを、2階ロビーのテーブルに貼るなど工夫をしておりますが、引き続きどのような方法があるか等も含めて検討させていただきたいと思っております。

【東委員】

コロナがようやく開けてきて、その前の去年の分の取り組みについて、私も何回か足を運ばせていただきましたが、本当に各展覧会とも展示の方法ですとかいろいろなことに工夫されて、素晴らしい展覧会等をされたという感想を持っています。

それと、オンライン・アート教室というものを新たに刷新して、6校258名の児童生徒に、参加していただいたということで、私も学校現場におりますので、こういう取り組みを今年度はさらに全道に広げると伺ったので、大変楽しみにしております。オンライン・アート教室の中で、双方向のやりとりがなかなか難しいので改良していきたいという課題に対するお答えもありましたので、是非、充実することを期待しております。

【大石委員】

先ほど、吉崎副会長がおっしゃっていたとおり、とても良い展覧会が、去年もこれからも企画されていて、日本画の展示もすごい楽しみにしているのですが、確かに評価がとても厳しいと思いました。80何%の実績値で90%の指標値に届かないなら、bにしても良いのではないかと思います。特に、優れた作品の収集と保管にCがついていますが、内容を見ると、Bで然るべきではないかと思います。美術館の方で設定した基準を少し下げるなり、あるいは、Aをつける可能性があるものについては、Aをつけて差別化をしていく評価の付け方が周りには見えやすい。全体に一

律Bを基準にするよりは、特に優れたものについてはしっかりとAをつけて、ちょっと足りない部分についてはCとすることはあると思います。あと、良好な滞在環境の提供でCがついているところが気になりました。

また、令和5年度の予算状況をお聞きして、移動美術館がなくなる話は前回もお聞きし、特定財源だけでは回らなくなっているのは、他の美術館でも聞きますので、早めに手を打つ必要があると思います。例えば、国立科学博物館の事案がそのまま当てはまるとは思わないですけども、クラウドファンディングで北海道だけだと厳しいところがありますので、全国的に呼びかけるとか、クラウドファンディングに投資してくれた人は、入館料半額なり、減免する方法もある。お金の集め方が以前とは変わってきているような事情があるかもしれない。早めに検討していただいた方が、良いと思います。

【松田副館長】

1点目の道立美術館の評価の関係ですが、昨年度の協議会の中でも、本庁文化財・博物館課における検討状況を説明させていただきました。今年の3月には道立美術館評価実施要綱が改正され、今後は、客観的な評価方法や基準に基づきながら、評価していくことができるようになったものと考えています。第2回目の協議会の際には、改めて、評価の関係についてご説明させていただきます。

2点目の予算の状況ですけども、お話しいただいた国立科学博物館の例についてはこちらでも承知しており、そういった方法についても、今後、検討していかなければいけないと考えております。また、移動美術館の話につきまして、全道的な見地から、地方にいる子供たちや大人にどのようにして作品を見せていくかという施策だと思っておりますので、近代美術館としても本庁と連携しながら、今後、どのように進めていくかということも含めて考えていきたいと思っております。

【中井委員】

アート・レファレンス・サービス（ARS）について、利用者が少ないとのことでしたが、ARSを知っている方が少ないという印象がありました。積極的にこういうサービスがあることを、呼びかけたら良いと思いました。

カフェについては、展覧会を目当てにカフェによるという人もいれば、カフェを目当てに展覧会も楽しむという人もおり、お互いに相乗効果が生まれると思いますので、魅力的なカフェみたいなものができると良いと思います。札幌芸術の森美術館の前にはキッチンカーが入ってきて、おいしいコーヒーを出したり、スイーツが出てきたりもし、すごく良かったりしますので、そういうものも含めながら、美術館全体の居心地の良さを追求していければ良いと思いました。

ポケット学芸員の導入については、ポケット学芸員で最初に見てから実際に本物の作品を見に行きたいとか、下調べにもいいですし、後からどんな作品かを見返す時にも使えますので、少しずつ導入していければ良いと思います。1度に沢山の作品ということでも少しずつ更新していけるのであれば、作品の解説とかだけではなく、その作品を取り巻く環境ですとか、おもしろいエピソードなどを追加するなど作品の魅力が高まっていくような仕組みを、ポケット学芸員なのか、それにかわるアプリもまた出ているのかもしれないですけども、そういう形でコレクションしている作品などを皆さんに見ていただけることを考えていけるのはすごく良いと思いました。

【松田副館長】

アルスコーナーの広報につきましては、今後、周知の方法などを考えていきたいと思います。

また、カフェにつきましては、我々も美術館にカフェがないというのは非常に重大な事態だと思っております。残念ながら、現在は、公告しても応募いただけないような状況にありますので、中井委員からお話があった、キッチンカーも過去に取り入れた実績もありますので、そういったことも含めながら、カフェをどうしていくかについても考えていきます。

ポケット学芸員につきましては、作品をじっくり見ていただく一つの契機になるよう進めたいと思っています。今年度については、全ての作品をポケット学芸員に取り込むわけではありませんけれども、順次、いろいろな作品を登録していったり、また、活用方法などについても考えていきます。

【柿崎委員】

私は、近代美術館で解説ボランティアをさせてもらっています。令和4年度は、コロナ禍で中断していましたが、「時間をめぐって展」で解説が始まりました。「戦時下の北海道美術展」

は、戦時下ということで解説ボランティアとしても初の取り組みでした。とても難しい題材に皆さんが真剣に取り組んで会期を迎えたのですが、地味に人がおいでになり解説しているのを聞いてくださるといって感じで、どんどん人が増えていきました。難しいことも、かみ砕いていくと、皆様が来てくださると思えました。また、「シャガール・イン・プリント展」では、シャガールの作品である《死せる魂》を96点全部展示していましたが、《ダフニスとクロエ》もカラー版の世界に25点しかないうちの一つを展示しており、本当に近美はいいものを所蔵しており、解説させてもらえるという喜びと、人がじわじわ来てくださるといって至福の時間でしたが、先ほどおっしゃったように、Bの評価なのだと思いましたが、難しいことに取り組んで自分たちは励んでいるので、評価は評価ですけども、努力は努力という感じを持っています。

カフェについては、美術館に行くと、おいしいお茶を飲んだり、ランチを食べたりというのが楽しみの一つです。近代美術館の2階のロビーからは、前庭がとてもよく見えて、お茶を飲みながら紅葉が見えたりするのですが、休館日になってしまうと、近代美術館もカフェも閉じてしまうというのが残念でした。

島根県立美術館は、閉館後もサンセットの後30分間美術館が開いているので、ティールームなどで皆さんお酒を飲みながら宍道湖に落ちる夕日を見たりして、良い時間を過ごせますので、近代美術館も休館、休館でないに関わらず、1階のホール、カフェ、2階のロビーが開放されていると良いと思っていました。そうすると業者の方が入られても、休館日ということで危惧することはないと思います。

【松田副館長】

東京の美術館の中でもカフェと美術館の入口が別々になっていて、営業時間帯も異なっている美術館があります。近代美術館は、入口が1ヶ所しかないのでセキュリティ上、現実的には難しい面がありますけれども、リニューアルもありますので、長期的な視点に立ち、考えていく必要があると思っております。

【千葉委員】

昨年、展覧会を何点か見ましたけれども、「サンリオ展」は、今までと違った形の取組で新しい客層の方が沢山来られたというのは、美術館としては非常にいい取り組みだと思いました。美術館により親んでもらえる若い層が、確実に増えると思いますので、引き続き取組いいただきたい。

今年度の1月に開催されますアイヌの展覧会につきまして、アイヌ文化は観光でもこれから注目されている分野ですが、美術という側面の切り口からも、アイヌ文化が広まるということはとてもいいことだと思いますので、大変期待しております。

【吉野委員】

学校教育と美術館とか博物館などの社会教育をどのようにつなげたらいいかということで個人的に非常に興味があります。1年間のいろいろな企画を、中学生、高校生、保護者の方に連れられた小学生の子供たちが、どれぐらいの割合で、展覧会を見るのかということに興味を持っておりました。私も、子供たちに、近代美術館がどういうところかというイメージを聞くと、崇高な、神秘的なイメージということでした。それは、敷居が高いということがなきにしもあらずと思っています。また、子供たちが、「フェルメール展」に行ってきた、「エジプト展」に行ってきたと言い、誰と行ってきたのと聞くと、親御さんと一緒に行ってきたという話でした。「サンリオ展」については、お姉ちゃんで行ってきたとか、世代が近くなります。企画の中身によっては、子供たちの受け止め方が違うし、情報を積極的に吸収する世代ですから、反応も違うと思います。そのような中で、こうなればいいと思うことは、保護者の方と一緒に親子で楽しい充実した時間を過ごすと言うのもとても大事なことだと思いますが、同世代の、例えば、お友達同士で美術館に行けるような、子供たちの気軽さというか、そういう関わり方ができればいいと感じているところです。

ある程度の大きい学校には、美術部があります。美術部の子供たちは、美術館によく行くという話も聞きますし、自分達は作品を作ったりします。道北の高校の校長をしていた時に、興味のある子には、旭川美術館でインターンシップを受け入れていただいたことがありました。特に、郡部に住んでいる子供たちは美術館に行きたくても、親御さんに車に乗せてもらって、2時間、3時間もかけないと旭川にいけないというところでも、インターンシップをする機会ができたということで、

大きな刺激になりました。美術館ではないですけど、北海道博物館、道立埋蔵文化財センターなどでも、探求の学習、研究活動をするというようなこともチャレンジするのですが、そこまでどうやっていくかという地理的な問題もあるのですが、近代美術館は札幌の中心部にあって、子供たちが自由に行くことができるすばらしい環境にありますので、子供たちがもっと芸術に触れる大切な機会ができればいいと感じております。

【松田副館長】

今年度、策定した北海道立近代美術館リニューアル基本構想（中間報告）の中で、コンセプトのひとつとして「ウィズ・キッズ」ということをお示しさせていただいております。子供たちに、いかに親しみを持ってもらうか、また、子供たちと一緒に美術館が成長していく、そのために、どのようなことが出来るのかということも課題です。先ほど説明した、「サンリオ展」のような企画展で、より親しみを持ってもらうということも、一つの契機かと思っています。今後、どのようなことができるのかということも含め、学校教育の方とも話し合いもさせていただければと思っております。

【三橋委員】

吉崎副会長が言われたとおり展覧会の内容としても、いろいろな取り組みとしても、一般の人が想像するよりもはるかにやられている。大石委員も言われていましたが、評価軸も新しい基準が決まったということですけども、真ん中がCなので、Aが90点以上と考えますと、Bを中心としながらも、目標を上回るような取り組みや、新たな取り組みに関して、特に良かったものについては、途中経過であっても、インセンティブを考えていくと良いと思います。行政的な観点からすると、目標があると上回ることも下回ることもしないで目標にまっすぐ合わせていく、目標に足りればいいというところが出てくるとは思いますけども、それでは柔軟な評価というよりは、マイナス評価をさけるとなるのはしょうがないと思うのですが、新しい試みとか、何かとても評価されるような試みがあった場合は、インセンティブ的に次の年に予算が増えるとか、何かができるとか、ご褒美があるような形の評価を少し入れていくのもいいと思います。ポリティカル・コレクトネス、差別問題、SDGs、LGBTとかいろいろな取り組みを進めていく中でもあるといいと思いました。

また、アンケートですが、先ほどのチケットというのもいいアイデアだと思ったのですが、通常、館内でやる場合のアンケートは、満足度アンケートになります。来た人に対しての満足度を聞くという評価アンケートとなります。それとは別に、来ない人がなぜ来ないのか、どういうものだったら来るのかという新規開拓的なニーズアンケートが、教育機関とか文化関係とか、少し分野をずらしてもいいと思うのですが、何らかの形で簡単に答えてもらえるようなものがあると、今後の企画に関して、少し加味していけるのではないかと考えております。また、オンラインでいろいろやられていくようですので、来れない人についてのニーズが、大事になってくると思ったので、その辺を進めていただくと良いと思いました。

また、オンライン・アート教室は、評価が高いですけれども、教育というと、小中高までと思われて、大学は博物館実習や連携という形になると思うのですが、昨年度は、特別展で研究の成果として、二つ作家の展覧会をやられていて、ビッキはとても良いと思ったのですが、学芸員が研究してそれを企画展までにするのは、大学の授業ではとても有意義なものと思いますので、冬期でもできますので、そういう試みもしていただけると大学としてはとても有意義になると思いました。

カフェですけども、どこも苦勞していると思いますが、私の地元の聾学校の近くにあるスターバックスでは、話さなくても、絵の描いてあるカードや指差だけでカフェで物が買えるサイレンスのカフェがアンテナショップ的にできまして、コロナ禍にもあっていて、展示と含めて興味のある方達が、実験的でもいいので特定の期間だけでもできるといいと思いました。クラウドファンディングなどもそのように特化すると集めやすいと思いますし、全体でお金を集めるよりは、障がいのある方のためのバリアフリーなどのいろいろな試みの中で集めていったり、ボランティアとか、機関と連携をするということもあり得ると思ったりしました。オンラインに関しましては、これからとても可能性があると思いますので、利用者が増えるようにできると、充実していくと思いました。

ウ 事務局から資料1-2（三岸好太郎美術館）について説明

エ 質疑・意見

【吉崎副会長】

ただいまの説明に関して、御質問や御意見等があれば、お願いします。

【大石委員】

令和4年度は、休まないで開館していて、それが入館者数の増に繋がっていると思いますし、基本的運営方針にAがついているので、このような形で優れた作品の収集をするのが三岸好太郎美術館であると、この評価でもしっかり周りからも見て取れると思います。

良好な滞在環境の提供でCがついているのですが、三岸好太郎美術館は知事公館の中にあり、非常に行きたくくなるような、滞在環境のいい美術館だと理解していたのですけれども、なぜCになったのか、ご説明いただけますでしょうか。

【岩上副館長】

指標値と実績値の差で評価をしていますけれども、もともと環境が良いということで、指標値が96%と高い指標設定をしておりますして、実績値が92%のため、結果的に評価が下がったという状況になっております。

【大石委員】

最初から高いのもどうなのかなと思いますが、わかりました。

【柿崎委員】

私は、三岸好太郎美術館で、「道産子が行く展」を担当し解説しており、少数の作品にも関わらず、毎回、切り口が変わっているので、そのたびにいろいろ趣向を変えて解説しております。道産子が行くというのは良いテーマだなと思いましたが、三岸は道産子だったのだなと思いながら解説し、良い体験ができたと思っています。

また、三岸好太郎美術館は通りすがりの人が寄るというのではなく、三岸好太郎美術館を目指して来られる方が多いので、来られた方に解説するのは励みになりますし、このような美術館を愛してやまない方が沢山いると思いつつ、良い時間を過ごさせてもらっています。でも、評価がこうなのだなと思っておりました。

【千葉委員】

私も、何度か三岸好太郎美術館に行かせていただいているのですが、三岸好太郎自身が若い頃から晩年にかけて、非常に作品の転換があるということで、いつ来ても楽しい美術館だと感じています。その中で、毎回テーマを変えながら、準備を進められているのは非常に評価が高いと思っています。

【中井委員】

今、「おばけのマ〜ルとたからもの展」で、私も大変お世話になっております。今回、担当してくれた学芸員がすばらしい、子供にもわかりやすい解説をつけてくれたおかげで、作品をより深く楽しんでいただけるようになってきていると思っています。美術館の学芸員は1年とか2年とか短いサイクルで変わりますが、皆さん個性を生かして展示をしてくれているから、いつも新鮮味があり、飽きない展示をしてくれていると思いました。

一方で、皆さん、専門の研究があるために、SNSでの発信の時間がないのが課題であると思いました。三岸好太郎美術館に限らないことだと思うのですが、同じタイミングで、一宮市の三岸節子美術館でもマ〜ルのこどもミュージアムというおばけのマ〜ルのイベントを長い期間開催してくれたのですが、そこの学芸員の方からもお話を伺ったのですが、普段の作品や研究とかいろいろな対応にいっぱいいっぱい、広報するのが家に帰ってからボランティアに近い状態ないと広報活動ができないとおっしゃっており、三岸好太郎美術館も人数が少ないですから、そういう時間でも使わないと出来ないのかなと思ったり、もしかしたら近代美術館の学芸員も同じのかなと思ったりして、そういったところが課題なのかなと思いました。

【三澤委員】

私は、近代美術館に来て、一緒に三岸好太郎美術館に行くことが多いです。協議会委員をさせていただいてから、絵が好きな友達が沢山周りにいたということがわかり、一緒に近代美術館ですとか三岸好太郎美術館に来ることが増えましたが、体力がないので、近代美術館を見た後に、三岸好太郎美術館に寄ろうと思うと、ちょっと休憩する場所は欲しいといつも思っており、今日は疲れたから、素通りということも何回かあったので、休むスペースがあったらいいなと思います。

評価で、AとかBとかCとかがあり、Cだなと思うこともあったのですが、聞くと高めに設定してあるとのことですので、指標値と一緒に記入いただくと良いと思いました。

【岩上副館長】

資料に記入していくことも、考えたいと思います。

【三橋委員】

1人の個人の展示ということで企画がとても大変だと思いますが、いろいろな観点からやられていて、私たちもそこにあるだけで嬉しいような、キュートな美術館かなと思っています。

広報がもったいないと思います。オンラインを使って、ゲームとかができたり、アーカイブも残せるので、人が足りないからこそ、対策を考えていただけるといいと思います。広報だけをやるスタッフがいるのが一番いいと思いますが、映像関係をやるとか、今後、出てくると思うので徐々に考えていかれると良いと思いました。

【吉崎副会長】

図書コーナーの利用が、落ち込んだままの横ばい状態ということがありましたし、先ほど、アート・レファレンス・サービスの利用者が減少しているというお話もありました。私のいる美術館でも図書コーナーがあるのですが、最近、どれだけのニーズがあるのかということを考えております。今、何か調べようと思ったらインターネットで簡単に調べられるような時代になっていますので、あえて美術館に行かないと調べられないようなもの、図書館に行ってもないけれどもここだったら充実しているという図書の充実、あるいは、サービスというものが求められると思いました。そうになると、利用数の問題ではなく、専門的に深く調べようとした人にどれだけ応えられるのかというところが、図書コーナーであり、アート・レファレンス・サービスの評価になってくるという気がしています。

また、近代美術館の展覧会の出口のところに、展覧会の関連図書が最近並んでいます。あれはすごく良いことだと思っています。展覧会を見て関心を持ち、より深く知りたい時にこういう図書があると提供している。どれだけの人たちが利用しているかわかりませんが、そういうことを思った人に対する、サービスがあるということは美術館として重要な姿勢ではないかと思いました。

【吉野委員】

近代美術館が、いろいろと特別展でテーマが変わって、全く違う展示もあつたりしますが、三岸好太郎美術館は、三岸好太郎に会いに行く、そのお家に行くという、安心感を行くことで感じるところがあります。そういう美術館の位置付けは、とても大事だと思いますので、この評価の部分は、指標値が高いこともありますが、私は決してそんなことは思っておりません。私自身はここでの素晴らしい出会いがありますし、中身は違う視点で微妙に違いますけど、見終わった時に三岸好太郎に出会ったという満足感で終わるといふ、こういう美術館のあり方も大事だと思っております。

【柿崎委員】

アルスコーナーですが、アルスのところは、Wi-Fiが通っていないということで、パソコンを使って調べることはできないので、アナログ式というか、自分たちが知っている情報を提供するということと、それが無理であれば近代美術館の学芸員に対応してもらうので、他の美術館のレファレンスコーナーとは少し違うと思います。

コロナ以前には、自主研修という形で子供たちが多く来てくれて、アルス担当が対応していたのですが、コロナになってしまったので、そういうのも途絶えてしまい、子供たちも来ないので利用者の減少に繋がっていると思いました。

【松田副館長】

今、アルスコーナーでは、Wi-Fiが使えるような形で整備しております。

(3) 北海道立近代美術館リニューアル基本構想（中間報告）について

ア 事務局から資料2について説明

イ 質疑・意見

【吉崎副会長】

ただいまの説明に関して、御質問や御意見等があれば、お願いします。

【柿崎委員】

私は、トイレが綺麗になったらいいな、もう少し広くなったらいいなと思っております。人気の

展示の時にトイレに長く人が並んでいるのを見て、心苦しく、痛く、思っていましたので、トイレが一番最初かなと思っているのですが、一番最優先ではないのだと思いながら見ておりました。いろいろ改革されていると思い、ありがたく思っています。

【千葉委員】

近代美術館が、老朽化しているというのは、知りませんでした。見た目が非常に綺麗なので、まだまだ大丈夫だと思っていたのが正直なところでした。今回の提案の中で一番大切だと思うのは、緑を生かしてということだと思います。都心の貴重な緑を生かした環境整備というのが、これからの北海道としても大切なことだと思いますので、このあたりは特に配慮いただければと思います。

【三橋委員】

私の25人位の授業でも、近代美術館のリニューアル基本構想をディスカッションテーマとして、1時間半ディスカッションしたことがありました。どれがいいのかという投票が最後にありまして、一番多かったのは、今のところも残しつつ新しいところも使うと言う拡大路線みたいなのが、一番多かったです。作品を収蔵する場所と公開する場所とか、いろいろ機能も増えてくると思うので、無理かもしれませんが、学生たちの意見はそのような意見が多かったです。

【吉野委員】

今の建物は、当時のモダンなデザインで、美術の専門家の方がデザインされたというのがよくわかります。今後、リニューアルするのであれば、現代のいろいろな解決すべき課題であります、バリアフリーであるとか、環境に配慮するであるとか、美術館の中だけではなくて周りの環境も含めて、それは決して建物に全部お金をかけるということではなくて、誰もがここに来たい、心が落ち着く、憩いの場所になるようなイメージもそうですし、あとは、作品を大事に保管できるということを考えていただきながら進めていただければと期待しております。

【中井委員】

一番気になるのは、どこにできるのだろうということです。いずれにしても、緑は大切にしたいので、開発することで、緑が失われるということになって欲しくないと思っています。

【吉崎副会長】

以上をもちまして、本日の議事をすべて終了いたします。

熱心なご討議、ご意見ありがとうございます。

【議事終了】

事務局から次回協議会の日程等について事務連絡を行い、すべての議事を終了。